

今、目の前にいる二人を見て思うこと

山陽小学校 佐々木 美帆

今年度、杏実が小学校に入学し、保育園の

送迎がなくなり、朝は少し余裕ができるか？

と思っ、ていたがそんなことは全然なく思い通

りにならない日が続いている。

早くトイレに行きなさい、早く着替えて

バス、待つてくれんからミ。

と毎朝、大きな声を出す私である。そのせい

で時々、声も枯れるぐらいだ。必死な私に、

主人が

「朝からうるさいなあミ。」と言。

とまあこんな毎日で、仕事に行く前から疲れ

ている。イライラすることが多い中で、我が

家は、最高だなと気付いた出来事があった。

昨年度の杏実の保育園発表会前のこと。原

因不明で家に帰宅すれば、杏実の泣き叫ぶ声、

イライラを私にぶつけるという日々。一体、

何があったのか？落ち着いて聞いてみると、

「特別楽器の小太鼓がしたかった。」という、

この子は積極的ではなく自分から何かをや
りたいというのを聞いたことがなかったの
で、私も主人もビックリした。大人も子ども
も同じで相手の話をしっかり聞くことが大切
だと私は知っているから、詳しく本人に聞い
てみた。杏実が言っていることが本当に正し
いのか？少し疑問はあるけれど、私は信じて
いる。誰が悪いとか言いたいわけではない。
「小太鼓に手を挙げたのに、知らない間に小
太鼓をする子が決まっていって練習している。」

なるほど。と思った。年長最後で自分の意志
がちゃんとあり、手を挙げたというところがこ
の子にとってはとても大きなことだったに
違いない。成長したなあと感じる私と主人だ
った。保育園では我慢して自分のやるべき役
と、楽器の練習をして帰宅すればそのストレ
スも私にぶつけるという毎日のくり返し。あ
あ母親って何？子どもの前では強い存在じゃ
ないんだ？損だよなあと思いいながら食欲も
なくなり気付いたら私は四キロほど痩せてい

た。杏実のそんな姿を見て理斗が、

「杏実ちゃん、何で先生にその時に言わんか

ったん？その時に言わんといけんのよ！」と。

私の言いたいことを伝えてくれた理斗にも成

長を感じた瞬間だった。あとで理斗に

「ありがと。すごいな、アドバースできる

ようにな。たんじゃあ」と言。たら

「僕が杏実ちゃんの立場だ。たらくやしいか

ら」といり意外な言葉が返ってきた。普段は

ケシカば。かりしている二人なのに、ああ、

や。ぱり兄妹だなと思。た。

杏実の発表会当日、セリフも大きな声が出

ていたし堂々としている姿を見てよくや。た

な、強くな。たなと私は思。た。

小学校では、特別楽器は、希望者はオーケ

ションで決定される。気の利いた言葉も言。

てあげられない自分もイヤだ。たので私は

この日の夜、

「セリフも大きな声で言え。たし、楽器も

上手にできて頑張。た。来年は、小学校

でやりたい楽器、手を挙げてオーディション
受けたらええよ。理斗くんも応援してくれる
って言っとるからな。
と言うととても安心した感じで
うん。小学校で頑張るわ。
と素直な返事だった。
このことがきっかけで、ささいなことでも
私にイライラをぶつけるようになった杏実。
その様子を何も言わずに見ている理斗。ヤブ
が四年生。理斗もきっと我慢していることが
あると思う。そんな理斗から
「僕のことはいええから、杏実ちゃんと二人の
時間、作ってきたら？」
と大人のような言葉をくれた理斗に涙が出そ
うになった。私は
「ありがとう」
それしか言葉が出なかった。理斗は、学校で
のことを私にも主人にもあまり言わなけれ
ど、人の気持ちはいし、かり理解しているよ
うだ。

今、目の前にいる二人を見て、私も一緒に成長していることを実感する。

今年もきっと楽器を見て思いたすだろう。杏実自身も、私も、こんなことがあったよなあと笑って話せる時がいつか来ることを願っている。